

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

□巻頭言 / 自動車リサイクル制度の見直し… P1 □賀詞交歓会 … P2
 □ブロック会議 … P3,P4 □鉄スクラップ最新情報 … P5
 □行事予定・お知らせ / 編集後記 … P6

vol.132

自動車リサイクル制度の見直し

- 自動車リサイクル法の施行から 15 年、いよいよ制度の見直し論議がスタート -

01

「産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会 自動車リサイクル WG・中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会合同会議」（以下、合同会議という）が、開催される運びとなりました。

自動車リサイクル法が施行され 15 年が経過いたしました。これまでの自動車リサイクル制度の施行状況や評価・検討結果などが取りまとめられ合同会議にて報告され、おおむね順調に機能していると評価された一方で、中古車と使用済自動車の取扱いの明確化や使用済自動車の循環的な利用の高度化、次世代車／素材の多様化など、様々な課題やこれからの状況変化に遅滞なく柔軟に対応し、中長期的に適切に機能するものである必要があり、今後とも定期的にフォローアップを行うとなど、改めて制度の在り方について検討を行うことが適当である判断され、制度見直しの取り組みとなりました。

前回の合同会議でも日本自動車リサイクル機構として取り組んできた①マテリアルリサイクルやリユースの促進として、効率的／非効率的な解体事例等をまとめた「自動車リサイクル設計事例集」の製作にかかる提案、②リサイクル部品の標準化（規格化）を図ることで信頼性のあるリサイクル部品が安定的に供給され、自動車ユーザーがリサイクル部品を利用しやすい環境を構築する取り組み、③ASR の再資源化をめぐる状況（中国ショック）などの取組・検討状況の報告が行われました。

機構は、これまで提案してきた①リサイクル料金の翌年充当方式、②車の登録システムとリサイクルシステムの連動、③一般廃棄物、産業廃棄物の合わせ産廃処理（中国雑品スクラップ問題対応）、④大規模災害に対応する特別スキームの検討など今後も継続し、自動車リサイクル推進会議や地域のブロック会議を通して機構会員の皆さまから広く意見を集約し、見直し議論を業界一体となりワンチーム進めていきたいと考えております。

広報部会として今後の取組状況の特集していきますので、皆さまからのご意見を、お待ちしております。宜しくお願いします。

巻頭言

穏やかにスタートを切った令和 2 年でしたが、気が付けば中国を発端とした新型コロナウイルスが国内外で大騒動になっています。

深刻なマスク不足も発生、これまた大きな心配が一つ増えました。

不足と言えば我々業界でも、ここ数年来、玉不足が叫ばれています。

特に地方では、軽自動車の廃車比率が増加、それに伴い普通車の在庫減少と踏んだり蹴ったりです。こんな時こそ限りある使用済自動車をみんなで分け合うことはできないのでしょうか。理想や夢物語を言うつもりはありませんが、なんとかしたいものです。「うばい合えば足らぬ わけ合えばあまる」

詩人 相田みつを

〈広報部会 田村 幸男〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 〒105-0004

東京都港区新橋 3 丁目 2 番 2 号

TEL: 03-3519-5181

FAX: 03-3597-5171

MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp

H P: http://www.elv.or.jp/

自動車リサイクル部品団体賀詞交歓会

1月22日（水）自動車リサイクル部品団体賀詞交歓会がホテルインターコンチネンタル東京ベイで開催されました。

機構本部からは、酒井代表理事、木内副代表理事が出席しました。当日は、行政や関係機関並びに業界関係者約180名が一堂に会し、主催者、来賓の挨拶に続き、酒井代表理事の乾杯の発声により歓談がスタートしました。

祝宴には、関係3省庁から、藤岡伸嘉・経済産業省製造産業局自動車課自動車リサイクル室長、田路龍吾・国土交通省自動車局整備課整備事業指導官、佐川龍郎・環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室室長補佐が来賓として駆け付け、挨拶されました。



福島県自動車リサイクル協同組合賀詞交歓会

2月1日（土）磐梯熱海温泉「四季彩一力」において福島県自動車リサイクル協同組合の令和2年賀詞交歓新年会が25名の参加者で行われました。

冒頭、田村代表理事から「今まで以上に組合員の役に立つ活動をしていく」と挨拶があり、日本自動車リサイクル機構酒井代表理事からは機構活動報告の詳しい説明がされ、参加者一同機構に対する理解を深めることができました。

この後の懇親会では、平地ブロック長の乾杯で始まり、組合員や共同出荷先業者様それぞれが日頃できない情報交換を楽しくお酒を酌み交わしながら時間が経つのを忘れるくらいでした。



日本自動車リサイクル山形賀詞交歓会

日本自動車リサイクル山形の研修会ならびに新年会が、2月5日（水）に山形県天童市天童ホテルにて行われました。同組織は昨年に支部制を導入して初の新年会です。来賓として自動車再資源化協力機構より柴田芳徳部長、日本自動車リサイクル機構からも酒井代表理事、平地健東北ブロック長、また資源新報社から小松氏が出席されました。

研修会では「エアバッグ類／フロン類適正処理における課題」（柴田部長）、「日本自動車リサイクル機構の活動報告」（酒井代表理事）が行われました。

最後の小松氏の講演「自動車解体における究極の手法」は関心度が高く、注目が集まりました。



東北ブロック会議

2月6日（木）仙台MTビル貸会議室にて、東北ブロック会議を開催しました。木内副代表理事に参加いただき活発な意見交換を行いました。
特に台風19号の被害が大きかった福島県、宮城県からは、以下の意見・要望がありました。

- 水害車など置き場確保が困難で、現状の保管場所で処理を進めていくが、前処理（エアバック類の回収）など、通常の時間より多くの時間を要するため処理が進まない。
- 廃車ガラの価格が下がっている。また、水害車など土砂等の混入がある場合、取引条件が異なることが見受けられ、収益に影響を与えている。

東北全体も、ゴミ問題が深刻な問題になっており、情報の共有を行いました。

また、東北ブロックの今年度活動の振り返りと次年度の活動計画、スケジュールを決定しました。様々な本部活動報告などを、自分の言葉で話せるよう議事録を工夫しながら、各支部で会員さんにより伝わるような活動を進めていくことも決定しました。



近畿ブロック会議・合同新年会

2月14日（金）大阪市北区のユーズツウにて近畿ブロック会議が開催されました。本部より酒井代表、ご来賓として近畿経済産業局、近畿地方環境事務所よりご担当者様にご出席いただき、総勢22名の参加となりました。

当日は、酒井代表より自り法15年目の見直しへの機構の方向性を中心とした本部報告を行った後、各県ごとに問題点等の情報交換を行いました。

「廃車の中のごみが減らない、前より酷くなっている。」「エアバッグの回収スキームが地域、会社によって回収の頻度が違う。」などの意見により活発な議論が行われました。

会議終了後には、「人手不足を解消する最強採用術～やる気あって辞めない人材を獲得する方法」と題して、超実践型の採用コンサルタントの坂本旭優様を講師とする新年講演会が開催されました。



九州ブロック会議

2月15日（土）TKP ガーデン会議場（福岡市）にて日本自動車リサイクル機構 九州ブロックの会議が開催されました。

機構本部からも参加いただき、埜村副代表の挨拶の中でダスト問題も非常に厳しいですが皆さんと一緒に協力していきましょうとの声を頂きました。

引き続き木内副代表から本部報告があり、エアバック流通の問題や自動車リサイクル制度の評価・検討についての話もありました。オブザーバーとして外川先生にも参加いただき意見交換をさせていただきました。

最後に、各地域の理事長から近況報告があり、市況や入庫も厳しいとの声も多数ありました。

会議終了後、懇親会にて各地域との交流を深めることが出来ました。



沖縄ブロック会議

2月21日（金）うるま市のニュー三和にて「第3回沖縄ブロック会議」及び「沖縄支部総会」を開催しました。当日は、本部から酒井代表理事が参加し、総勢30名の参加となりました。

会議では、まず酒井代表から自動車リサイクル部品協議会との合流に関する報告、自動車リサイクル法15年目見直し論点やASR処理の現状と課題、共同出荷事業、自動車リサイクル高度化財団委託事業等などの説明が行われました。

次に松田ブロック長から行政に確認した解体業更新許可に関する件について、沖縄県環境整備課より3月末までに文書でもって通知する旨の回答を得たことを報告、その後意見交換が行われました。

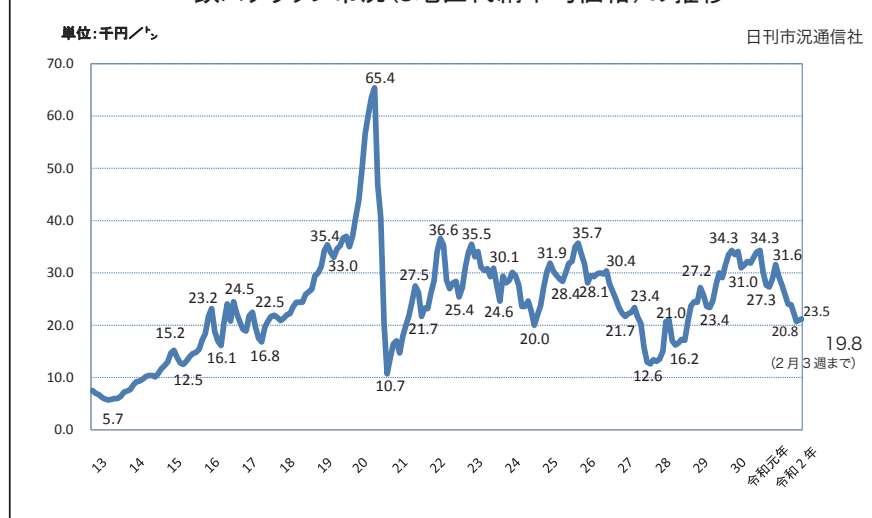
引き続き、支部総会を開催し、活動計画を議論し役員留任が決定しました。

会議終了後には、懇親会を開催し交流を深めました。



2月第4週(18日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



2月18日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	19,500～20,500	様子見
	南関東	19,500～20,500	様子見
名古屋		19,000～20,500	弱含み 様子見
関西	大阪	19,500～21,000	弱含み 様子見
	姫路	19,000～20,000	弱含み 様子見

国内市場 海外・輸出相場動向など様子見

国内市場の鉄スクラップ市況は、2月第3週(9～15日)末までに全国の電炉各社の値下げ改定が概ね一巡し続落。国内H2相場は1月25日以降、合計で1トンあたり4,500～5,000円どころ値下がりする動きとなった。全国的にH2相場は2万円前後へと下落し、安値は2万円を割り込む状況だ。一方で海外市場では底入れ反発する動きが出ている。現時点で上伸に転じたのはトルコ相場のみだが、今後、アジア市場などへ波及する可能性がある。このため、国内市場では、今後の海外・輸出市場の動向を様子見する機運も出始めている。

■トルコ向けは小幅な上昇続く

トルコ向けの鉄スクラップ市場は、2月上旬までの下落基調から堅調ムードに変化し2月後半入りとなった。先週中盤に9ドル程度反発した後も新規成約が続き、小幅な上昇が断続的に見られる状況だ。週明けとなる2月17日付のトルコ向けHMS1&2(80:20)の中心値は、米国玉がCFR275ドル弱、欧州玉がCFR267ドルどころと、2月12日付の9ドルどころの急反発以降もジリ高の動きが続いている。

【関東地区】 1月下旬以降値下がりの中、シッパー筋に上げ戻す動

関東市場の鉄スクラップ市況は、電炉各社の値下げ改定が一巡し、1月下旬以降、H2価格は合計5,000円どころ値下がりした。2月18日時点の関東市場のH2炉前実勢価格は19,500～20,500円中心。昨年11月上旬の直近安値を下回り、2万円前後での推移となっている。こうした中、湾岸商社・シッパー筋の間に引き合いを強める動きが出ている。浜値は21,000～21,500円中心。電炉買値より高値にある。

【東海地区】 需給になお緩和傾向が続き、弱含み気

名古屋地区の電炉メーカーは購入価格を下げて2月の後半に入ったが、依然として市況下落の歯止め材料に乏しく、目先の気配はなお弱含みだ。電炉の値下げ改定の幅は、1月25日から2月14日までに7回、既に計4,500円見当となり、実勢ベースで20,000円を割り込んでいる格好にある。引き続き需給は緩く、電炉間には荷受け制限や荷止め等が見られる。2月18日時点のH2炉前実勢価格は19,000～20,500円中心。

【関西地区】 域内は様子見商状「ひとまずは落ち着き気配」

大阪地区の鉄スクラップ市況は概ね様子見商状。新型肺炎ウイルス問題に対する懸念は収まっておらず、先々への警戒見通しは緩めづらい状況にある。しかし、輸出市場や関東湾岸相場も下げ止まりへ向かい、電炉入荷にもバラ付きが生じているため、「ひとまずは落ち着き気配」との見方が広がりつつある。2月18日時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が19,500～21,000円中心、姫路地区が19,000～20,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、2月18日午前時点のもの)

行事予定

ー 3月の主な行事予定ー

- 3月4日(水)
第2回リサイクル技術部会
- 3月11日(水)
第12回広報部会
- 3月26日(木)
未来部会
サテライトセミナー

※会議、イベント等の中止や自粛が進められているため、急遽、日程の変更・延期の場合がございます。

March



お知らせ

【HV バッテリー共同出荷事業】 対象品目追加及び価格改正に関するご案内

「駆動用 HV バッテリー共同出荷事業」は、2019 年度も継続して事業を実施しております。この度、2020 年 2 月より一部対象品目の追加と買取価格の改正が行われております。追加対象品目等の詳細につきましては、以下の URL 説明資料をご確認のうえ、会員の皆様は、是非ご参加くださいますようお願いいたします。

また、集荷依頼書の受付 FAX 番号も変更になっておりますのでご注意ください。以下の「集荷依頼書」での集荷依頼をお願いいたします。

※本事業への参加は、**JAERA 会員限定**です。

※説明資料の閲覧には、**JAERA 会員ページへのログイン**が必要です。

■ 説明資料 (閲覧には JAERA 会員ページへのログインが必要です)

http://www.elv.or.jp/media/kagi/20200205-2019_HV_kyodou_guide_20200205.pdf

■ 冠水 HV バッテリーの引取に関する補足説明

http://www.elv.or.jp/media/5/20191108-2019_HV_kyodou_kansui.pdf

■ 集荷依頼書

http://www.elv.or.jp/media/5/20200205-2019_HV_kyodou_req_20200204.pdf

FAX: 03-3438-1600 Eメール: shikin-q@jarc.or.jp

編集後記

2 月も終わりを迎えようとしておりますが、依然として本格的な冬将軍がやって来る気配はなく、今年はどうやら暖冬で終わりそうな予感です。そんな最中に新型コロナウイルス感染が世界中至るところで猛威を振るっています。そうしたパンデミックな状態にありながら、ドラッグストアのマスクは、ほぼ品切れ状態。在庫したらしたで買い占めや争奪戦、またインターネットでは、ここぞとばかりに高額で転売されている有様です。寂しい話です。

寂しいと言えば、エアバッグのインターネット上での不法販売も依然として後を絶たず、なんと出展件数約 50,000 件といいますから唖然とします。たとえ違法と分かっている「ビジネスになればお構いなし」、いわゆる何でもあり的な風潮は人間の身勝手さを如実に物語っています。「みんなもやっているから」「ばれなければいい」といった、利己的な考え方が誤っているのは小学生でも分かること。そういう幼稚な人達はきっと心そのものが何かのウイルスで冒されているに違いありません。それにしても世知辛い世の中になったものです。

(広報部会 部会長 永田 則男)